

射水市民病院の先進的 ICT 遠隔医療システム（IMIZUNO-HOME）を齊藤北陸総合通信局長が視察 ～麻野井英次院長と今後の実用化、普及方策について意見を交換～

齊藤一雅北陸総合通信局長は、平成 24 年 10 月 5 日、先進的 ICT 遠隔医療システム（IMIZUNO-HOME）を開発、運用している射水市民病院（富山県射水市）を訪問し、同システムの今後の実用化、普及方策について意見を交換しました。同システムは、重症心不全患者を見守るための遠隔（在宅）医療システムであり、その中核部分の一つである生体情報モニタリングシステムについては、『ヘルスケア・スマートタウン構想』（※）を提唱する金沢大学理工研究域機械工学系 山越憲一教授が開発した生体計測センサー（ピローセンサー、シートセンサー）を利用しています。

総務省は、射水市及び射水市民病院を実施主体とする『ICT ユビキタス・ホスピタルタウン射水プロジェクト』（先進的 ICT 遠隔医療システム（IMIZUNO-HOME）の開発、運用を含む取組）に対し、平成 21 年度ユビキタスタウン構想推進事業により支援を行っています。

麻野井院長から、「生体情報モニタリングシステム」、「双方向音声画像転送システム」、「Web 記録システム」により構成される先進的 ICT 遠隔医療システム（IMIZUNO-HOME）の説明を受け、今後の実用化、普及方策について意見を交換した後、同システムの実際の運用の様子などを視察しました。

北陸総合通信局では、今後、麻野井院長をはじめ関係者のご尽力により開発、運用されている射水市民病院の先進的 ICT 遠隔医療システム（IMIZUNO-HOME）の成果（これまでの取組の中から得られた様々な知見を含め）の普及に取り組んでいくこととします。

※『ヘルスケア・スマートタウン構想』については、当局 HP の「自宅が人間ドック、暮らすだけで病気を予防、毎日の生活の中で健康を見守る『ヘルスケア・スマートタウン構想』～同構想を提唱する金沢大学山越研究室を齊藤局長が訪問、意見交換～」をご参照ください。

(<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokuriku/press/saishin/2012/shin120919.pdf>)。



麻野井院長から説明を受け、意見交換



三測表（生体データ）、動画等の情報が共有できる Web 記録



ピロータイプの心拍・呼吸センサー



トイレの血圧センサー

連絡先：北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課（担当：綿谷、中野）

電話：076-233-4420

e-mail：hokuriku-jigyo_seisaku_atmark_soumu.go.jp